



令和6年3月15日
第879号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0001 東京都千代田区千代田
九段南一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話 03-3261-5521
00160-6-25389
電報掛 00160
編集 毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

令和6年度事業計画等承認 「平和の語り部」事業推進へ

2月27日、第30回理事会在開催され、令和6年度活動方針・事業計画が承認された。継承計画を核とし、令和7年に最終償還となる特別弔慰金の継承を実現させ、同時に「平和の語り部」事業による次世代継承、強化が第一とすることが確認された。加えて語り部事業推進に向け、女性部・青年部合同のブロック別研修会の開催が提案、了承された。

冒頭、水落敬栄会長は遺族会の平和の語り部(以後、語り部)が、国の補助事業となる見通しであることは、国に「平和を語り継ぐ団体は遺族会」と正式に認められた証左だ」と力強く語った。そのうえで、本事業を水統的に行うことが、遺族会に課せられた社会的責務を果たすと共に組織運営に繋がるとして、

青年部組織の結成、育成を第一に組織一丸となつて取り組むことが示された。理事会の最大の審議事項は、令和6年度活動方針・事業計画であった。遺族会活動の根幹は、英霊顕彰と戦没者遺族の処遇改善であるが、組織の継承が要諦として、最大の懸案として、昨年度に引き続き活動方針・事業計画

組織継承等を研修 島根県、静岡県で

各地域において組織継承の研修会が開催された。

島根県 参加者35人
2月6日、島根県遺族連合会役・職員合同研修会が松江市ホテル白鳥で開催された。「戦後80年に向けた組織継承3カ年計画(以後、継承計画)」の研修のため、本部担当者ら派遣された。

青年部が未結成の同県では、活動中の斐川支部より第4ブロック青年部とともに組織強化が第一項目に掲げられた。そして、組織継承の具体策である「戦後80年に向けた組織継承3カ年計画」以後、特中の制度と趣旨を学ぶ勉強会、陳情活動の開催が示された。また、語り部事業は、47支部の意見を反映させた事業計画・活動者育成に対する説明等が行われた。

で中継等の取組みが紹介された。中でも、忠霊塔、慰霊碑の在り方について、遺族会員はもとより町民に周知するため、地元ケーブルテレビ局に意図を説明し、特別番組が制作された過程が報告され、映像を視聴した。映像は、活動報告では、仁多郡遺族連合会からは戦後78年余となる今日、戦争の記憶の風化に強い懸念が示され、戦争の悲惨さ、平和の尊さを継承する遺族会の意義を広報するため、遺族会報の全戸配布、追悼式をケーブルテレビ

ら追悼式を利用して語り部事業を実施すると

いつた情報提供があった。矢田一恵県遺族連合会会長は、遺族会活動の継承に向け努力し、決意を語った。

2月16日、静岡県遺族会研修会が掛川グランドホテルで開催された。本会水落敬栄会長が出席し、継承計画を含めた遺族会の今後の方向性について講演した。来年度から国の補助事業となる見通しの語り部周知のため、同県から、東部・沼津、中部・焼津、西部(浜北区)の代表者が講話を

行った。大石功県遺族会会長は、昭和館等の類似施設を見学し、在任の浜松市の復興記念館で独自に語り部活動を展開しており、語り部先進県である静岡県をけん引する存在であるため、その長年の活動と見識を請われ、本部語り部事業化推進委員会委員に就任する予定である。今後は、全国における語り部事業の推進のため、各地域の実情を踏まえた指針を策定すべく本部は同委員会に提言を求める予定である。

他国はおろか自国の人命にも寄り添う姿勢はない。ゼレンスキー大統領はドローン攻撃での犠牲者に哀悼の意を示すとともに、「世界がロシアのテロ行為を無視すれば、より多くの人が殺害される」と指摘している。この世も戦争により犠牲となるのは市井の人々だ。さややかな幸せを否定する理由があるかと戦争に正義はない。私たちが戦没者遺族が胸に秘めたこの思いを、記憶を、今、「平和の語り部」として次世代に伝承してまいりましょう。

石川県へ被災者見舞金 本会、女性部、青年部から

1月1日、石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震により甚大な被害がもたらされ、今なお、戦没者遺族を含めた多くの被災者が避難生活を余儀なくされている。本会は被災者支援として本会正副会長・常務理事・監事、46支部、女性部、青年部より、石川県



伊藤早苗常務理事から見舞金を受け取る今田勇雄石川県遺族連合会会長(2月27日、九段会館テラスで)

ロシアによるウクライナ侵略から3年目に

ウクライナ侵略から3年目に突いた。未だ収まらない中で、衝撃の記事が目に見え、夜間民間人が住む集合住宅にロシア軍の自爆ドローン(無人機)攻撃で、乳幼児2人と3歳と8歳、10歳の子ども5人が死亡。現場を確認すると、乳幼児2人はそれぞれの母親に抱かれた状態で見つかったという。また、10歳と8歳の兄妹だった。やりきれない気持ちでいっぱいだが、ウクライナに侵襲するロシア軍の1日当たりの平均死傷者数に関する分析が3月3日、英国防省から発表された。2024年2月は983人に上り、侵襲開始以降、最多となったという。ロシア軍の死傷者の総数は35万5千人を超えたと推定している。ブリンケン大統領の「一人海軍」は露軍にも甚大な犠牲を強いるものだが、他国はおろか自国の人命にも寄り添う姿勢はない。ゼレンスキー大統領はドローン攻撃での犠牲者に哀悼の意を示すとともに、「世界がロシアのテロ行為を無視すれば、より多くの人が殺害される」と指摘している。この世も戦争により犠牲となるのは市井の人々だ。さややかな幸せを否定する理由があるかと戦争に正義はない。私たちが戦没者遺族が胸に秘めたこの思いを、記憶を、今、「平和の語り部」として次世代に伝承してまいりましょう。



兵食 HEI-SHOKU

令和六年 遊就館特別展

陸海軍の食事から、英霊に捧げる「神饌」まで

令和6年3月16日(土)~12月8日(日)

靖国神社 遊就館

【休館日】令和6年6月24日(月)~26日(水)

【開館時間】午前9時~午後4時30分(入館は閉館の30分前まで)

【拝観料】大人300円/大学生200円/高校生100円

※中学生以下及び崇敬奉賛会会員・常設展拝観者無料

東京都千代田区九段北3-1-1 電話:03-3261-8326

<https://www.yasukuni.or.jp/>



者業
没集事
遺骨収

硫黄島から27柱帰還 千鳥ヶ淵戦没者墓苑で引渡式

日本戦没者遺骨収集推進協会は、1月30日から2月15日の期間で硫黄島遺骨収集第4次派遣を実施した。令和5年度最後の硫黄島遺骨収集派遣である本派遣では、27柱が収容され、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で挙行された硫黄島戦没者遺骨引渡式で厚生労働省へ引き渡された。硫黄島での収容遺骨概数は1万681柱となった。



北飛行場跡北東で遺骨の収容にあたる団員=2月2日、硫黄島で

硫黄島第3次収集派遣は10月下旬に硫黄島沖で発生した噴火の影響により中止となったが、第4次派遣は、本会から6人が参加協力し、その他硫黄島協会の参加者も含め総勢30人の団員で構成し、実施された。

黄島協会、小笠原村在住の硫黄島旧島民の会、JYMA日本青年遺骨収集団等社員団体の参加者を含め、厚生労働省の遺骨鑑定人が鑑定し、総数27柱と判定された。

2月13日には天山「硫黄島戦没者の碑」前、現骨搜索は見送り、地表箇所により収容作業を行った。団員は細心の注意を払って、地表の土砂等の堆積物を手作業で除去し、遺骨の発見に努め、北飛行場跡北東で24柱、

千鳥ヶ淵海上で3柱を収容した。その後、団員の手にし、刷毛等を使って丁寧に洗骨された遺骨は、厚生労働省の遺骨鑑定人が鑑定し、総数27柱と判定された。

2月13日には天山「硫黄島戦没者の碑」前、現骨搜索は見送り、地表箇所により収容作業を行った。団員は細心の注意を払って、地表の土砂等の堆積物を手作業で除去し、遺骨の発見に努め、北飛行場跡北東で24柱、

突撃し、戦没された確水郡八幡村(現高崎市)出身小川清海軍大尉を大尉父にもつ青年部員小川陽子さんと、突撃の衝撃により小川大尉の身体にめり込んだ時計が、空母乗員によって取り出され、

数十年前の歳月を経て遺族に返ってきた実話をもとに製作された。会場には約80人が参集し、来場者からは音楽会に「一生の演奏が素晴らかった、演奏者の一人が戦争で亡くなった親族の話をしたことが印象に残った」と、記録映像、アニメ映画については「県民でありながら太田空襲を知らなかった、県民にもシベリア抑留で苦労された人がいることを初めて知った」と、そして紙芝居は「手作り感があり温かみのある素

昨年11月の派遣でバブアニューギニア国立博物館から館員及び警察官の同行費の引上げ等について強い要望があり、遺骨収集事業に関する覚書を締結しなければ全ての派遣は中止するとの連絡があったため、事業再開に向けて協議することが今回の調査派遣の主な目的であった。

派遣団は、ポートモレスビーで在バブアニューギニアの調査派遣は、11年ぶりに2月13日から21日の期間で実施され、本会から1人が参加した。派遣団はヤップ州政府及び離島評議員会等に事業の趣旨を説明するとともに、

組織継承「語り部育成」

各地の取り組み紹介

各地域における組織継承「平和の語り部」の取組を紹介したい。

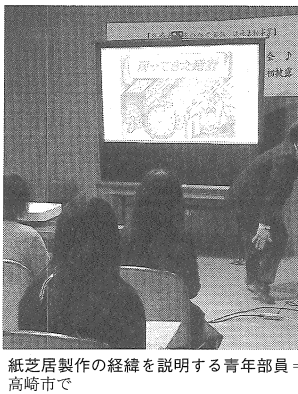
第2部は、映像で見る戦争の記憶として、太田・大泉空襲の記録映像「アニメシベリア抑留物語」の視聴ののち、本継承事業の目玉である青年部製作紙芝居「戻ってきた時計」の披露となった。

紙芝居製作のきっかけは、神風特攻隊として米空母「バンカーヒル」に

紙芝居製作の経緯を説明する青年部員=2月12日、高崎市で

紙芝居製作の経緯を説明する青年部員=2月12日、高崎市で

紙芝居製作の経緯を説明する青年部員=2月12日、高崎市で



紙芝居製作の経緯を説明する青年部員=2月12日、高崎市で

紙芝居製作の経緯を説明する青年部員=2月12日、高崎市で

紙芝居製作の経緯を説明する青年部員=2月12日、高崎市で

紙芝居製作の経緯を説明する青年部員=2月12日、高崎市で

遺骨収集現地調査を実施 サイパン島、メレヨン環礁等

日本遺族会は1月から2月にかけて日本戦没者遺骨収集推進協会主催による海外3地域「マリアナ諸島、東部ニューギニア、メレヨン環礁」の現地調査派遣に参加協力した。

マリアナ諸島現地調査派遣第7次は、1月28日から2月10日の期間で実施され、本会から2人が参加した。派遣団はサイパン島南部のテラヒルで活動し、前回派遣からの継続地点では22柱を収容し、

現地住民の協力を得て遺骨を収容する団員=2月16日、メレヨン環礁タギラップ島で

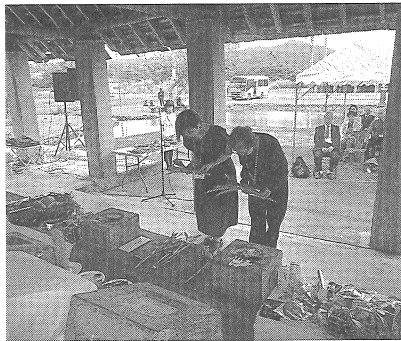
紙芝居製作の経緯を説明する青年部員=2月12日、高崎市で

父の眠る地で冥福を祈る

東部・西部ニューギニアで

戦没者遺児による慰霊友好親善事業では、東部ニューギニア、西部ニューギニアを相次いで実施し、全国から遺児及び付添者総勢39人が参加した。国の補助対象となる孫、ひ孫世代6人が付添い、現地で遺児とともに戦没者の足跡を辿り、遺児の亡き父に対する思いに触れるとともに、現地の小学校等を訪問し関係者と友好を深めた。

東部ニューギニアは2月2日から9日、西部ニューギニアは2月13日から22日の期間で実施



全戦没者追悼式で献花する団員と付添（戦没者の孫）
＝2月7日、バプアニューギニア・ウエワクで

を祈願した後、父が眠る所縁の地へと出発した。東部ニューギニアに集合して結団式を行い、靖国神社で旅の安全



慰霊祭で追悼文を読み上げ、亡き父に語りかける
＝2月17日、インドネシア・マノクワリで

を深めた。7日には、ウエワクにある政府建立の「ニューギニア戦没者の碑」前に

マリン、戸里川、サルツブと各地を機転運賃した後、ブツ、ボイキンで慰霊祭を行い亡き父に積年の思いを語りかけ、ご英霊の冥福を祈った。

また、ウエワクのベネディクト小学校を訪ねし、団員が持ち寄った学用品、衣類等を、障がい者施設へは車いす等を寄贈し、現地の方々と友好

を深めた。7日には、ウエワクにある政府建立の「ニューギニア戦没者の碑」前に

「第二次世界大戦慰霊碑」前において、A班、B班合同の全戦没者追悼式を厳粛に挙行し、英霊に感謝と追悼の誠を捧げた。

また、両班ともそれぞれピアク観光局代表、ソリ

ひと時を過ごした。

戦没者遺骨収集事業

令和6年度参加登録始まる

日本遺族会では、令和6年度戦没者遺骨収集事業への参加希望者の事前登録を呼び掛けている。孫、ひ孫、甥、姪等の青年部も広く登録願いたい。

都道府県遺族会の会員である戦没者の遺児、孫、ひ孫、甥、姪等、身体健康な者、③本会の協力団体関係者並びに、本会事業の推進に賛同いただける者

実施予定地域

①フィリピン ②東部ニューギニア ③ビスマク・ソロモン諸島（ブーゲンビル島、ガダルカナル島等）④マリアナ諸島（アム島、北マリアナ諸島）⑤ミャンマー ⑥インドネシア ⑦トラックス諸島 ⑧マレーシア ⑨インドネシア ⑩パラオ諸島 ⑪ギルバート諸島 ⑫樺太 ⑬モンハン ⑭沖縄 ⑮その他南方地域

遺骨収集

①ハバロフスク地方 ②沿海地方 ③ザバイカル地方

【硫黄島の遺骨収集】年度内4回の派遣を予定している。

※海外派遣対象国の国内情勢等により派遣が中止となる場合がある。

▼参加登録方法 参加登録は、全ての項目に記入した上で、在住する各都道府県遺族会事務局に提出願いたい。

なお、参加希望者が推進協会から指定された定員を上回る場合は、選考となる。

遺児、青年部（付添）参加者募集

令和6年度慰霊友好親善事業

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」の令和6年度の事業計画の概要が、このほどまとまった。

同事業は、戦没者の遺児を対象とし、ご父等の戦没地周辺を訪れ慰霊追悼を行うとともに、現地の方々との友好親善を深めることを意図している。

また、同事業は令和7年度を以て終了となることから、次世代に戦争の記憶を「平和の語り部」として伝承するため、一人でも多くの遺児に青年部と共に参加願いたい。

令和6年4月からの募集要項は次の通り。

▼時期及び地域 実施計画概要参照。

※東京等に集合し、結団式及び渡航に係る説明

を、3分の1の補助が受けられるようになった。

国内交通費等は自己負担となる。

▼参加資格 戦没者の遺児で、令和5年度参加者を除き複数回の応募ができる。（周辺公海上を含む実施地域で父等を亡くした方に限る）

▼申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。

参加者の資格審査には、申込書の記載内容を確認するため、事前に申込書

を取り寄せ記入項目に記入した上で提出願いたい。

なお、申込多数の場合は選考となる。

実施地域や実施時期等は、相手国や交通機関等その他事情で変更・延期、中止となる場合がある。

参加者の高齢化を考慮し、看護師が同行する。

なお、同事業の実施においては厚生労働省の公募により、本会が補助金交付団体として認められ

た場合に限り。

令和6年度 戦没者遺児による慰霊友好親善事業概要

実施地域	実施時期	募集人員
1 旧ソ連※	令和6年8月上旬	40人
2 旧満洲※	令和6年8月下旬	40人
3 ボルネオ・マレー半島	令和6年8月下旬	40人
4 トラック諸島	令和6年9月上旬	20人
5 パラオ諸島	令和6年9月上旬	20人
6 西部ニューギニア	令和6年9月中旬	40人
7 マリアナ諸島	令和6年10月上旬	40人
8 東部ニューギニア	令和6年10月中旬	42人
9 ビスマルク諸島	令和6年10月中旬	40人
10 インド	令和6年11月上旬	30人
11 フィリピン（1次）	令和6年11月上旬	120人
12 ソロモン諸島	令和6年11月下旬	40人
13 台湾・バシー海峡	令和7年1月中旬	40人
14 西部ニューギニア（特定地域）	令和7年2月上旬	36人
15 東部ニューギニア（特定地域）	令和7年2月中旬	36人
16 ミャンマー（特定地域）※	令和7年2月下旬	36人
17 マーシャル・ギルバート諸島	令和7年3月上旬	40人
18 フィリピン（2次）	令和7年3月中旬	120人
19 中国※	令和7年3月下旬	80人

※旧ソ連、旧満洲、ミャンマー、中国地域については、実施が難しい状況にあることをご承知お願います。

本会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた方々に対し、心よりお礼申し上げます。また、賛助者の都道府県名については、送金方法により居住地域が特定できない場合があります。省略します。

賛助者名（敬称略）カタナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等）桑原茂樹、山下裕子、山

下順子、井澤咲子、田中郁子、川端修、森本浩吉、長野操、正木敏爾、相澤明子、の場武浩、篤志家（以上、2月1日から2月末日まで）

皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善等のさまざまな遺族会活動に利用させていただきます。

齊藤恒久、齊藤登彦、

